



レポーター

SONアスリートアンバサダー
田中 晴樹さん (SON・福岡)

前回大会（スペシャルオリンピックス2018愛知）では、選手としての出場（競技：テニス）だったので、テニス一点絞りで考えていましたが、今回観客の立場で見ると何を感じるだろう？と思い、前からずっと、この視点でSOを楽しみたかったので、今大会の観戦を楽しみにしていました。

今回の取材をとおして、オリンピック・パラリンピックとは違う、もう一つのオリンピックがあるという楽しさを伝えていきたいです。

■ 開会式

開会式前、僕はアスリートたちがいる控室に行ったのですが、最初は、皆さん緊張されているようでした。ですが、開会式が始まると、みんなと楽しい空間を味わっていて笑顔を見せていました。

観客は、この日を待っていたかのように手を振り、その気持ちが伝わりました。また、有森さんの気持ちの入った挨拶スピーチを聞いた誰もが、(有森さんが)泣きたい程、この大会に力を入れていたんだと、感じたと思います。

■ “柔道”をレポート！

今大会から、ナショナルゲームの正式競技になった柔道。普通の柔道大会とは違い、主審からのルール注意が、観客の方にもスピーカーで流れ、そのルール説明が分かりやすく、柔道を学びながら観戦できる楽しい試合でした。

—会場の雰囲気

ユニファイド形式で、アスリート対知的障害のない広島県内の、高校・大学に所属する柔道部の方との対戦があり、会場全体が、アスリートを応援する気持ちと、ほっこりした気持ちに包まれ、よりアスリートも楽しく柔道が出来ていたと思います。

—参加者の様子

大会スタッフは、選手達が礼をする前に「アスリートが柔道を始めたきっかけ」や「今、頑張っている技などの紹介」を放送していました。とても分かりやすくて良かったです。



■ インタビュー <アスリート・コーチ>



【柔道アスリート&
ヘッドコーチ (SON・神奈川)】



(Q1) 普段の練習はどうされていますか？

(A1) 道場で一般の方と一緒に練習したり、SOで週1練習しているので、週2回は練習しています<アスリート>。楽しんでやり、柔道の基本の動きを身に付けてもらえるようにしています。そうする事で、組み合った時に、怪我させないように試合ができます<ヘッドコーチ>。

(Q2) ナショナルゲームに出場できてどう思いましたか？

(A2) 凄い機会を設けてもらってウキウキというか楽しみです。

(Q3) 昨日はデビュウイングがありました。どうでしたか？(このインタビューは、大会3日目です。)

(A3) デビュウイングで、あくまで練習でしたが、地元広島の崇徳高校の柔道部とできたのが嬉しかったです。色々な人と出会えて良かったです。

(Q4) ヘッドコーチに質問です。これまでのアスリートの試合を見てきてどうでしたか？

(A4) 昨日のデビュウイングで、アスリートの緊張はありましたが、地元の高校生と練習できたのが嬉しいです。楽しそうに生き生きとしていたので、次の試合に繋げてもらいたいです。

■ インタビュー <ボランティア>

(Q1) ボランティアに参加したきっかけを教えてください。

(A1) 学校の作業療法士の先生が、大会関係者から聞いて、学校の授業の一環としてボランティアに参加しました。作業療法は、身体障害や、精神障害のリハビリなど幅広く活躍するため、その勉強としてボランティアに参加しました。

(Q2) ボランティアでは、どのような事をされますか？、そして今の気持ちを教えてください。

(A2) 閉会式のプラカード係になっています。とても緊張しています。

(Q3) SOの柔道競技の試合を見ての感想を教えてください。

(A3) 審判も、アスリートをサポート・支援していると思いました。(試合中、反則の)説明があったので、柔道の素人でも分かりやすかったです。ユニファイド柔道では、(アスリートが)良い技をかけた時に、ちゃんと技をかけられていて、それ以外の時は、そうじゃないよと、サポートしているのが分かりました。(※主に、アスリートが、足技として成立しない仕掛けをした時は、かわしたりしていたのを指します。)

また、アスリートの皆さんのエピソードを交えた司会進行が良く、親の気持ちになりました。



【広島国際医療福祉専門学校・作業療学科の皆さん】

■インタビュー <ファミリー>

(Q1)息子さんの、試合中の表情を見て、どう思われましたか？

(A1)大汗をかいてデビジョングをしていました。練習も試合も楽しそうにしています。

(Q2)ナショナルゲームで柔道が初開催となる事を知った時、どう思われましたか？

(A2)アスリートにとっては、ナショナルゲームがあると、「行きたい！」という気持ちになると思います。ただ練習をする、というだけではなく、試合に出たいという目標に向かって、頑張る事ができたと思います。

(Q3)試合を見て、どういう気持ちで応援したくなりますか？

(A3)頑張ってくれたらと思います。普段の力が出し切れたらいいなと思います。

(Q4)息子さんの普段の様子で、SOに入って変わった所とかありますか？

(A4)息子は今ソフトテニスもしていて、運動好きです。更に柔道をするきっかけを貰えて、いつも楽しそうに通うようになりました。



【SON島根 柔道応援団】

■インタビュー <アスリート・コーチ>



【SON・広島 陸上アスリートの皆さん&コーチ】

(Q1)SOでの陸上の楽しい所を教えてください。(A1)皆で楽しく競技をする事です。

(Q2)走った後の気持ちはどうですか？(A2)練習より早く走れて良かったです。

(Q3)エディオンスタジアムのトラックには、めったに立てませんが、いかがでしたか？

(A3)大きな舞台上、競技ができて良かったです。最高でした！

(Q4)ナショナルゲームが地元、広島で開催された事に関しては、どうですか？

(A4)SOを応援してくれる人が増えました。

普段関わりのない人からも、地元開催ということで、沢山の応援をもらい、力になったと思います。路面電車や市民の方々などが、大会30日前イベントや100日前イベントで、地域で盛り上がり下さいました。トーチランでSOを知ってくれた方もいました。大会を通して、広島の方々にSOを知っていただけたのが良かったです。

■インタビュー <ボランティア>

(Q1)ボランティアに参加したきっかけを教えてください。

(A1)会社内で、ボランティアの募集があって、参加しました。

(Q2)ナショナルゲームが広島で開催されて、皆さんは、どう思っているのでしょうか？

(A2)ナショナルゲームの開催は、広島県民として誇りに思います。

(Q3)どんな大会にしていきたいですか？

(A3)皆さんに『広島っていい所だなあ～』と思ってもらえるようにしたいです。

■インタビュー <観戦のアスリート・ファミリー>

(Q1)所属されている広島地区でナショナルゲームが開催されて、どんな気持ちですか？

(A1)まさかナショナルゲームが、広島で開催されるとは思っていなかったのが嬉しいです。

(Q2)SON・広島のバスケットボールプログラムの普段の様子を教えてください。

(A2)狭い範囲でのプレーをしていましたが、今では、広く動いて、プレーできているので成長していると思います。

(Q3)SON・広島のバスケットボールチームが金メダルを獲得した時の気持ちを教えてください。

(A1)最高に良かったです！

ここからアスリートの成長がガンガン上がって欲しいと思っています<アスリート>。

嬉しいです。おめでとうと言いたいです<ファミリー>。



[SON・広島 バスケットボールアスリート]

■“サッカー”をレポート！（SON・青森 対 SON・三重）

僕は福岡県のアスリートなのに、他県の応援をしてしまうぐらい、両チームのプレーと、ユニファイドの連携のチームワークが印象に残りました。皆さんの白熱した試合に、サッカーの取材をして良かったと思いました。

－会場の雰囲気

ピッチで取材をしたのですが、選手やコーチの熱気と、観客・ボランティアの皆さんの祈る様な光景は、2020年の声出し応援禁止の全国高校サッカー選手権大会ぐらいの、特別な空間だと思いました。敵味方関係なく、どの選手がいいプレーしても、拍手喝采でした。

また、SOは、勝ちにこだわらず楽しむ事も大切にしている組織でもあるので、このサッカー競技も、イエローカードも出る事のない、フェアプレーの試合だったので、今まで見た試合の中でより平和な雰囲気の試合だと思いました。

－アスリート、大会スタッフ、ボランティアの方々の様子

両チームのゴールキーパーが「どこからでもシュート打って来い！」と言う強い気持ちが伝わりました。

この大会は、副審や第4の審判なしの試合のため、主審さんは、選手の交代のジェスチャーや、ボールがラインアウトした時の、次の指示などがあり、選手より、かなりの緊張感があるんじゃないか？と思いました。ただ試合を見ても、かなり笑顔でさばっていて、主審さんもナショナルゲームを楽しんでると、感じました。

ボランティアの人たちは、午前と午後の試合の合間に、ミニレク形式で、サッカーの練習の一環でよくあるボール取りゲームをしていて、ドリブルのテクニックなどを披露しあったり、笑い声ありの有意義な時間を過ごしていました。そして、試合終了後は、ロッカールームに戻る選手に、ボランティアの方々が、『楽しかったですよ』の意を込めて、笑顔と拍手で迎え入れていました。その時、選手達は、ペコリペコリと頭を下げながら、今日の試合が、『終わった～』と思っていたり、今日の試合で感じた課題を考えている様でした。



■インタビュー <SONドリームサポーター玉田圭司さん>

(Q1)SOを初めて知った経緯を教えてくださいませんか？

(A1)名古屋グランパスにいる時、SOの話聞き、自分でも調べて知りました。

(Q2)ドリームサポーターに就任した時は、どんな気持ちでしたか？

(A2)最初は不安な気持ちもありましたが、(SOが)どういう雰囲気か？どうい子達なのか？を見ながら考える気持ちが楽しかったです。

(Q3)今回のナショナルゲームではサッカー競技をご覧になられたと思いますが、玉田さんご自身が、試合に出場したり、ベンチで見るのとは別に、今回観客として見るサッカーはどうでしたか？

(A3)僕の好きな言葉に、『スポーツには夢がある』という言葉がありますが、改めてスポーツには、夢や希望が与えられるという、新たな発見がありました。

(Q4)玉田さんが「ナショナルゲーム」をどう感じられたか教えてください。

(A4)一生懸命楽しんでやる、スポーツを熱中してやる、そんな人は他の事も頑張れるようになると思います。そんな、何かに繋がる大会だと思いました。



※玉田さんに、SO以外のインタビューをしました。

(Q5)(9月25日に)豊田スタジアムで行われた、ユニファイドサッカー「SOチーム対名古屋グランパスU-15」を見ての感想はありますか？

(A5)結果より、選手皆が楽しんでいて、結果以外の何かがあると思いました。

(Q6)玉田さんにとって、名古屋グランパスのホームゲーム会場である豊田スタジアムは、どんなスタジアムですか？

(A6)サッカー選手にとって、サッカー専用フィールドというのが嬉しいです。サッカー場は陸上トラックの内側にある事が多いけど、豊田スタジアムはサッカー専用なので、試合している側も、とても臨場感がありました。

(Q7)玉田さんが出場されたJリーグと日本代表の試合では、気持ちの違いはありますか？

(A7)僕は、僕の仕事の責任を果たす事に集中しているので、違いはありませんでした。日本代表以外の試合でも力を抜いた事はありません。



■インタビュー <SONアスリードアンバサダー>

2022年から1年以上、年間を通じて、オンラインでの定例ミーティングを実施し、互いにコミュニケーションを図りながら、SO活動やアスリートについて、より多くのかたに知ってもらうための取り組みを行ってきた、第2期SONアスリードアンバサダー。このスペシャルオリンピックス2022広島の現地で初めて第2期メンバー3人でリアルでの対面を果たし、田中さんから伊藤有希さん(フライングディスク競技出場)、洲崎雅裕さん(開会式の司会を担当)のお二人へインタビューしました。

・伊藤有希さん (SON・山口)

(Q1)所属している、SON・山口のフライングディスクプログラムの良い所を教えてください。

(A1)人情が良いところです。近所の人達との交流も盛んです。

(Q2)SOに参加して良かったところを教えてください。

(A2)全体的にサポートしてくれる方がいるので、コミュニケーションが楽しかったですし、応援してくれるのも嬉しかったです。

(Q3)開会式で入場行進の時に、ステージに上がった時の気持ちを教えてください。

(A3)ステージにおられる有森さんと室伏さん(スポーツ庁長官)と目が合って嬉しかったです。お客さんが手を振っているのを見た時は『いよいよ、これからだ』と思いました。緊張せずに楽しもうと思いました。

(Q4)フライングディスク2種目(アキュラシーとディスタンス)で、金メダルを取った感想をお願いします。

(A4)アキュラシーのデビジョンングでは2枚しか入りませんでした。決勝では4枚入り、ディスタンスでは予選よりも遠くに飛ばせて、2つ金メダルを取れて嬉しいです。



・洲崎雅裕さん (SON・広島)

(Q1)所属している、SON・広島のバスケットボールプログラムの良い所を教えてください。

(A1)コーチ・ファミリー共にフレンドリーで、支え合い、プログラムを楽しく頑張っているの
で、楽しい時間だと思っています。

(Q2)SONアスリートアンバサダーになって良かった事はありますか？

(A2)他の県のアスリートと関わる事が新鮮ですし、またさまざまなSO関係者と関わる事ができて、とても貴重な体験をさせてもらっています。

(Q3)話は、ナショナルゲームに入りますが、今回開会式の司会に選ばれた時の気持ちを教えてください。

(A4)ビックリしました。今回はサポートする立場として、頑張ろうと思いました。

(Q5)司会を終えた時の気持ちはどうでしたか？

(A5)『大きな役目を終えたな』という達成感がありました。

(Q6)今大会のバスケの試合で、SON・広島のアスリートを見ての感想はありますか？

(A6)最初の2試合は動きが硬かったですが、4試合目から全員で得点を取って点数に結びついて、展開は接戦になり、勝利もしたので、残りの試合も全員の力で全力で試合に挑んでもらいたいです。

■ インタビュー <有森裕子大会会長>



◆あしがき◆

今回初めてナショナルゲーム取材してみた、「アスリート全員が主役だ」ということが分かりました。

団体競技で気づいたんですが、チームのキーマンが見つからないのと、陸上を見に行った時、会場全員が、選手全員を応援しているので、そう思いました。

ナショナルゲームは、アスリートにとって皆が応援してくれる場所だと思いました。アスリートは地区大会より、大人数がいる場所に立っていて、観客は、誰もが特定の人を応援するわけではなく、アスリート全員を応援していました。僕もナショナルゲームに出場したアスリート全員に、拍手を送りたいと思いました。

また、アスリート以外の方にもたくさん取材してみた、『SOの活動という新しい体験に触れて、とても楽しかった』という声を聞いて、僕自身もとても嬉しかったです。

(Q1)ナショナルゲーム・広島の大会ロゴは、どうやって決まったのですか？

(A1) 平和を願って、全ての人が集って、笑顔で、彩る大会にしたい、という願いを込めて、もみじをモチーフにし作られました。

(Q2)今回のナショナルゲームは、コロナ禍での特別な大会になりましたが、次回は、どんな大会にしていきたいですか？

(A2)次は、第8回目となる冬季大会(長野・北海道の分散大会)ですが、今回のナショナルゲームと同様に、アスリート達、ひとりひとりが一生懸命輝いて、頑張れる大会にしたいです。